

## 高齢者と装い (第2報)

—自然感情を通してのファッションコーディネーター—  
山岸 裕美子 (群馬社会福祉短期大学)

【目的】 人はそれぞれ様々な精神的要因により衣服を装い、装いと個々の過去の習慣・経験などのいわゆる“生活史”とは大きな関連性をもっている。しかし一方、装いの動機となるものとして誰でも共通に持つことのできる普遍的な要因も存在するのではなかろうか。本研究においては普遍性を持つものとして、「自然」に対する感受性・感情に着目し、高齢者に対し自然や自然の風物に関する気付きをテーマとして、ファッションコーディネーターの働きかけを行い、衣生活を中心とする日常生活に対する意識の変化について考察を行った。

【方法】 本学会第49回大会での発表に引き続き、高齢者に対しファッションコーディネーターの働きかけと援助を行った。対象は、特別養護老人ホーム利用者(前回と同様)、有料老人ホーム利用者、在宅の高齢者とした。前回での働きかけの内容は、装うことに関心を持ち自己表現を行うことに重点を置いていたが、今回は季節や自然の移り変わり、自然の風物などに対する感受性・感情を常に踏まえながら、色・文様・素材を中心として、季節にふさわしい服装を考えていった。

【結果】 老人施設内においては季節の花を飾ったり、壁面に季節に因んだ装飾を施すなどの工夫が為されているが、特別養護老人ホーム利用者においてはこれらを見て季節を感じるだけではなく、自らの衣服に対しても季節感を取り入れながら四季の変化を考えた表現を行うことが出来るようになった。また特に、季節の行事に参加する際の服装の中に工夫が見られるようになった。有料老人ホーム利用者及び在宅高齢者については、今日まで培ってきた知識を想起しながら取り組み、衣生活と季節感との関係を強く内面的に把握し、精神的により充実した内容となった。